

氏名 村 上 宅 郎

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 甲 第 3 1 0 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和44年 3 月31日

学 位 授 与 の 要 件 医学研究科生理系解剖学専攻
(学位規則第 5 条第 1 項該当)

学 位 論 文 題 目 **On the position and course of the deep palmar arteries, with special reference to the so-called palmar metacarpal arteries.**
平掌深部動脈の位置と経路，特にいわゆる掌側中手動脈について

論 文 審 査 委 員 教授 大 内 弘 教授 新見嘉兵衛 教授 児 玉 俊 夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

日本人成人死体の40手を肉眼解剖し，次の所見を得た。

- 1) . いわゆる掌側中手動脈は深掌弓又は近位貫通枝から起り，骨間筋掌側面との関係で浅枝群 (S) と深枝群 (b) に分かれたる。さらに，浅，深二群共に中手骨の掌側で骨間筋の境界を下る掌側中手骨枝 (M) と骨間で骨間筋の境界を下る掌側中手骨間枝 (I) の二種に分かれたる。一般に掌側中手動脈とよばれているものの大部分は浅掌側中手骨動脈 (sM) に，一部は浅掌側中手骨間動脈 (sI) に相当するものであり，深枝群 (dM と dI) はその破格と思われる。深掌側中手骨間動脈 (dI) は細枝ではあるが高頻度に存在し，掌・背側骨度筋層間を通る典型的経路を有する。
- 2) . 人の手掌深部の二層の動脈層の形成は猿の手足にみられる二層にそれぞれ相当すると考えられるが，猿と違って弓は一層だけである。
- 3) . 上記4種の動脈のうちで浅掌側中手骨動脈 (sM) が，頻度及び指への貢献度に於いて，最も基本的な動脈であって，尺骨神経深枝から起って中手指節関節に行く関節神経と同行し，典型的な場合には2本の遠位貫通枝及び2終枝に分かれる。
- 4) . 上記の分類に従うと，第1掌側中手動脈又は母指主動脈と呼ばれるものは深枝群すなわち dM₁ である。この外に sM, sI, dI に相当する動脈が稀にはあるが存在する。

5) . 指に行く動脈の色々な型はこれら正常に在る小動脈又はその枝のどれかが異常に発達し，他が退縮して生じたものと考えられうる。

オカジマ・フォリア・アナトミカ、ヤポニカ、第46巻、第4号（昭和44年9月発行）に掲載の予定

論文審査の結果の要旨

本研究は従来漠然としていたいわゆる掌側中手動脈の位置と経路を肉眼的に詳細に観察して，これに中手骨に沿うものと骨間を走る2種があることを確認し，さらにこれらの動脈は骨間筋掌側面との関係で浅，深2系に分けられることを発見したもので価値ある業績と認める。よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。